

# Research on Index of Psychology Textbook(1)

メタデータ	言語: jpn 出版者: 公開日: 2014-01-31 キーワード (Ja): キーワード (En): psychology education, technical term, index, database 作成者: KAWAKAMI, Masahiro メールアドレス: 所属:
URL	<a href="https://osaka-shoin.repo.nii.ac.jp/records/3869">https://osaka-shoin.repo.nii.ac.jp/records/3869</a>

BY-NC-ND

# 心理学では何が教えられるべきか —心理学テキストの索引分析(1)—

心理学部 心理学科 川上 正浩

**要旨：**心理学は領域の広い学問である。そして、心理学という学問内での領域が細分化されているため、“心理学”という1つの学問体系としての基礎知識がどの範囲のものを指すのかは、極めて曖昧であると言える。心理学教育においては、こうした心理学領域での、特に初学者に対しての教育の“エッセンス”を用語の形で明らかにすることが必要である。本研究では、心理学テキストの索引をテキストデータとして扱い、そのデータベース化を行う。今回のデータでは2006年から2010年に刊行された35冊の心理学テキストを参照したパイロット・スタディの結果を報告した。

**キーワード：**心理学教育、専門用語、索引、データベース

## 問題と目的

心理学は領域の広い学問である。臨床心理学、生理心理学、発達心理学、認知心理学、といったように、心理学という学問内での領域が細分化されているため、大学で教鞭を執る研究者においても、その専門は“心理学”という大きな学問であるというより、臨床心理学なり認知心理学なりといった、細分化された学問であると言える。残念なことであるが、それぞれの研究者は、必ずしも心理学の全ての領域を満遍なく知り尽くしているわけではない。その一方で、心理学は心理学として、1つの大きな学問として体系を保っていることもまた事実であり、実際に、多くの大学において、「心理学」あるいは「心理学概論」という名称の授業が開講され、そこでは、体系化された1つの学問としての“心理学”教育がなされている。

ここでの問題点は、この、「心理学」あるいは「心理学概論」を担当する教員は、あくまでも、心理学のいずれかの領域の専門家であり、必ずしも心理学のすべての領域の専門家ではないということである。教育を“する”側の人間として心理学に携わる時、どのような領域が“教えるべき”領域であるのか、どのようなタームが“最低限理解させるべき”タームであるのかに心悩ませる“心理学者”は多いと予想される。

“学習心理学”や“認知心理学”、あるいは“臨床心理学”といった、ある程度限定された領域ならばともかく、目のメカニズムから不登校のメカニズム、あるいは流行のメカニズムまでもがその対象と言える“心

理学”という領域を、15コマの時間内で教育するに当たっては、担当する教員は、少なからず「何をどこまで教えるべきか」に悩んでいると予測される。つまり、心理学教育に際して、“心理学”という1つの学問体系としての基礎知識がどの範囲のものを指すのかは、各教員にとっては極めて曖昧であると言える。

したがって、こうした授業を十全なものにするためには、心理学全体を見通したうえで、“心理学”としての基本的な知識のコアを客観的に確定することが必要である。

そこで本研究では、「心理学」あるいは「心理学概論」といった、心理学という学問の根幹をなす授業で、学生に対して教授されるべき基本的な知識のコアを“用語”の形で確定し、提案することを目指す。そして、そのための方法として、大学等で教科書として用いられることを前提にして刊行される心理学のテキストに記載されている内容を分析することにより、「心理学」としての知識のコアを確定することを提案する。

すなわち本研究は、心理学教育を考える研究であると位置付けられるべきものであり、特に初学者に対しての心理学教育の“エッセンス”を用語の形で明らかにしようとする試みである。これを心理学のテキストという指標に基づき、提案することは、今後の心理学教育の質の向上につながると予想される。また、我が国における心理学教育あるいは心理学研究の動向が、それぞれの時期の心理学テキストへの記載内容に反映されていると予想されるので、心理学テキスト分析を

通して、我が国における心理学の変遷を捉えることも可能となるだろう。

教科書と言われるような心理学関係の書物を執筆するに当たっては、それぞれの執筆者（あるいは監修者）は、“教育すべき”領域やタームをそこに記載する

ことであろう。したがって、教科書に記載されたタームを吟味することにより、心理学者の多くが、こういったトピックを“教育すべきトピック”として捉えているのかを明らかにすることができると予想される。

心理学教育に関する先行研究としては、特定の領域

表 1：分析対象書籍情報一覧

番号	著者	発行年	書名	出版社	版
1.	若山隆良 他編著	2006	人と心の科学—人間理解と援助の心理学—	八千代出版	初版
2.	下野孝一	2006	「こころ」の解体新書	ナカニシヤ出版	初版
3.	羽生義正 他編	2006	心理学への扉—心の専門家へのファーストステップ—	北大路書房	初版
4.	山崎晃 他編	2006	新 はじめて学ぶこころの世界	北大路書房	初版
5.	金城辰夫 監修	2006	図説現代心理学入門	培風館	三訂版
6.	中里至正 他編	2006	心理学の基礎を学ぶ	八千代出版	初版
7.	岡市廣成 他編	2006	心理学概論	ナカニシヤ出版	初版
8.	安齊順子 編	2007	あたりまえの心理学—心理学入門—	文化書房博文社	初版
9.	八田武志 編	2007	新版 現代心理学	培風館	初版
10.	美濃哲郎 他編	2007	スタディガイド心理学	ナカニシヤ出版	初版
11.	加藤司 著者代表	2007	心理学の基礎—新しい知見とトピックスから学ぶ—	樹村房	初版
12.	羽成隆司 他	2008	心理学へのファーストステップ	ブレーン出版	初版
13.	藤田圭一 他編	2008	新しい心理学ゼミナール—基礎から応用まで—	福村出版	初版
14.	和田実 他	2008	心理学入門 こころと行動の科学	川島書店	初版
15.	島田博祐 他	2008	入門 心理学—わかりやすく学ぶ基礎・応用—	文化書房博文社	初版
16.	浅井潔 編	2008	改訂 人間理解のための心理学	日本文化科学社	改訂版
17.	二宮克美 他	2008	ベーシック心理学	医歯薬出版	初版
18.	大野木裕明 他	2008	ガイドライン心理学問題集	ナカニシヤ出版	初版
19.	子安増生 他編	2008	心理学フロンティア	新曜社	初版
20.	森敏昭 編著	2008	心理学概論 [心理学のポイント・シリーズ]	学文社	初版
21.	浦上昌則 他編	2008	心理学 Introduction to Psychology	ナカニシヤ出版	第 2 版
22.	小山望 編著	2008	人間関係がよくわかる心理学	福村出版	初版
23.	日本心理学諸学会連 合心理学検定局 編	2009	心理学検定 基本キーワード	実務教育出版	初版
24.	今井久登 他	2009	心理学をつかむ	有斐閣	初版
25.	西本武彦 他編	2009	テキスト現代心理学入門	川島書店	初版
26.	角山剛 他編著	2009	基礎からの心理学	おうふう	初版
27.	繁樹算男 他編著	2009	心理学の謎を解く 初めての心理学講義	医学出版	初版
28.	道又爾	2009	心理学入門—歩手前 「心の科学」のパラドックス	勁草書房	初版
29.	松川順子 編著	2009	心・理・学 基礎の学習と研究への展開	ナカニシヤ出版	初版
30.	藤田哲也 編著	2009	絶対役立つ教養の心理学 人生を有意義に過ごすために	ミネルヴァ書房	初版
31.	山岡重行 編著	2010	サイコ・ナビ心理学案内	おうふう	初版
32.	斎藤勇	2010	イラストレート 心理学入門	誠信書房	第 2 版
33.	水野りか 編	2010	心理学を学ぼう [第 2 版]	ナカニシヤ出版	第 2 版
34.	福田由紀 編著	2010	心理学要論 こころの世界を探る	培風館	初版
35.	兵藤宗吉 他編著	2010	心の科学 理論から現実社会へ	ナカニシヤ出版	初版

(たとえば生理心理学)の教育に際して、その方法論を論じたもの(小孫, 2008)や、一般的な心理学教育に対しても、その教育のための手続き(たとえばコース・クレジット制度の導入)などの効果を論じたもの(たとえば水野・松井, 2007; 小林, 2007)は文献としても認められる。

もちろん心理学全体の教育を考えた文献として利島(2008)なども認められるが、これらは必ずしも実証的なデータに基づいて論じられているものではない。

そこで本研究では、心理学テキストという形で外在化した、それぞれの心理学研究者(心理学テキストの編者、執筆者)の主観を統合する形で、多くの心理学研究者が目指す、“初学者に教育するべき用語”を提案する。

## 方法

心理学系の学部あるいは大学院を持つ複数の大学の図書館を中心に、心理学の概論書、教科書として執筆されている本を収集した。この際、複数冊に渡って心理学の各領域を取り上げているシリーズ本等は対象から除外し、1冊で心理学全般についてカバーしているもののみを対象とした。また、海外で執筆されたテキストを日本語に翻訳した本、あるいは索引の記載されていない本についても、収集の対象から除外した。

以上の基準で収集された概論書、教科書のうち、2006年から2010年の間に刊行されたものを本研究の対象とした。これら35冊の心理学教科書の著者(監修者)、発行年、書名、出版社、版を表1に示した。

索引項目と見なしたのは、索引に記載され、具体的なページ数との対応がなされているもののみとした。索引によっては、たとえば「知能」の索引項目に続いて、「\_\_\_検査」「\_\_\_指数」「\_\_\_の立体構造モデル」といった記載がなされている場合があるが、これらはそれぞれ「知能検査」「知能指数」「知能の立体構造モデル」と記載されているものとして、索引項目としてカウントした。また、この際、「知能」のところにもページ数の言及がなされている場合は、「知能」自体も独立した索引項目であると見なしたが、「知能」にはページ数の言及が無く、以下の「\_\_\_検査」等にだけページ数の言及がなされている場合には、「知能」自体は索引項目とは見なさなかった。単なる人名(たとえば「スキナー」)は分析の対象から除外したが、人名を含む項目(たとえば「スキナー箱」)は索引項目と見なした。

また、たとえば「トップダウン処理」と「トップ・ダウン処理」については、区別を行わず、ただし、原語の単語の区切りに中黒を挿入する表記(この場合は「トップ・ダウン処理」)を正規のものに見なして表記を改めてカウントした。

また「パブロフ型条件づけ」と「パヴロフ型条件づけ」、「ストレス・マネジメント」と「ストレス・マネジメント」、「キティ・ジュノバーズ事件」と「キティ・ジュノビーズ事件」のように原語の発音と日本語表記との対応に関する不一致であると認められるものについては、区別を行わず、同一の項目であるとしてカウントした。

さらに、「文章完成法」と「SCT」のように、同一の概念についての言及と見なされるものについては、区別を行わず、同一の項目であるとしてカウントした。

## 結果と考察

本研究では、2006年から2010年の間に刊行された心理学の概論書、教科書35冊の索引項目を分析し、データベース化を行った。心理学教育における基本的な知識のコアを“用語”の形で確定するためのパイロット・スタディであると言える。

索引項目の表記や概念を整理、分類し、これを頻出順に並べたものが表2-1から表2-7である。表2においては、その頻度が4以上のもののみを掲載している。本研究の結果における頻出項目はワーキング・メモリ、長期記憶、短期記憶、意味記憶など、記憶に関連したもの、オペラント条件づけ、古典的条件づけ、など学習に関連したもの、超自我、来談者中心療法、行動療法、投影法など臨床心理学に関連したものなどであることが見て取れる。今後は、こうした項目間の関連についてより詳細な検討が望まれる。対象にする概論書、教科書についても拡張が必要であろう。また、今回の方法においてはたとえば「文章完成法」と「SCT」を同一項目と見なしたことにより、このいずれをも索引項目として挙げている概論書、教科書があれば、2回カウントがなされることになる。こうした処理の妥当性や、同一の概念に言及していると思わずかどうかの基準については筆者の主観によるものであるため、この点についても再検討が必要である。

一方で、現在、多くの大学に心理学部あるいは心理学科という形で、心理学を専攻とする学部・学科が設置されており、またそうした専攻の無い大学においても、いわゆる一般教養科目として「心理学」が設置されている大学が多い中、本研究の成果は、大学におけ

る心理学教育に直結するものである。

また本研究で用いた、テキストの索引分析という方法自体はオリジナルなものである。本研究の成果を通じて、テキストの索引分析という手法の有効性が確認されれば、心理学以外の学問領域においても、同様の手法で分析していくことが可能となろう。そうした意味においては、本研究の成功は、様々な学問領域での分析に対応できる学問のコア、あるいは学問の歴史を検討するための方法論の提案につながるものであると言える。

**謝辞：**本研究は平成 24 年度・平成 25 年度大阪樟蔭女子大学特別研究助成費の交付を受けた。ここに記して感謝の意を表す。

## 引用文献

- 小林敬一 (2007). サービス体験を通して心理学を学ぶ：大学の心理学教育におけるサービス・ラーニング (教育心理学と実践活動) 教育心理学年報, **46**, 149-155.
- 小孫康平 (2008). 画像解析による簡易瞬目・瞳孔測定法の検討と生理心理学教育での利用可能性 日本教育工学会論文誌, **31(Suppl.)**, 1-4.
- 水野りか・松井孝雄 (2007). 心理学教育を豊かにする Course Credit 制の導入と評価 日本教育心理学会第 49 回総会発表論文集, 582.
- 利島保 (2008). 日本学術会議の心理学教育プログラム検討分科会対外報告について (その他) 基礎心理学研究, **27**, 100-103.

表 2-1：頻度順索引項目一覧

ID	項目	回数	ID	項目	回数	ID	項目	回数
1	ワーキング・メモリ	34	51	知覚	21	101	前操作期	16
2	アイデンティティ (自我同一性)	33	52	統合失調症	21	102	妥当性	16
3	主題統覚検査 (TAT)	30	53	ステレオタイプ	20	103	同化	16
4	エス	29	54	モラトリアム	20	104	般化	16
5	愛着 (アタッチメント)	29	55	自己概念	20	105	欲求	16
6	質問紙 (法)	29	56	性格	20	106	臨床心理学	16
7	知能指数 (IQ)	29	57	対人魅力	20	107	P-Fスタディ	15
8	超自我	29	58	認知行動療法	20	108	キャノン・バード説	15
9	長期記憶	29	59	認知心理学	20	109	ストレス反応	15
10	パーソナリティ (人格)	28	60	ジェームズ・ランゲ説	19	110	意識	15
11	短期記憶	28	61	ストレッサー	19	111	学習性無力感	15
12	来談者中心療法	28	62	ビッグ・ファイヴ	19	112	感覚	15
13	オペラント条件づけ	27	63	リハーサル	19	113	検索	15
14	古典的条件づけ	27	64	宣言的記憶	19	114	社会的促進	15
15	行動主義 (心理学)	27	65	動因	19	115	主観的輪郭	15
16	洞察 (学習)	27	66	内田・クレベリン精神作業検査	19	116	精神分析	15
17	ロールシャッハ・テスト	26	67	面接 (法)	19	117	態度	15
18	意味記憶	26	68	スキーマ	18	118	調節	15
19	葛藤 (コンフリクト)	26	69	モデリング	18	119	脳幹	15
20	心的外傷後ストレス障害 (PTSD)	26	70	原因帰属	18	120	罰	15
21	内発的動機 (づけ)	26	71	再生	18	121	反射	15
22	エピソード記憶	25	72	条件刺激	18	122	符号化	15
23	自我	25	73	対人認知	18	123	誘因	15
24	知能検査	25	74	単純接触効果	18	124	両眼視差	15
25	動機づけ	25	75	文章完成法 (SCT)	18	125	臨界期	15
26	同調 (行動)	25	76	カウンセリング	17	126	うつ病	14
27	Y-G性格検査	24	77	ハロー効果	17	127	コーピング	14
28	ストレス	24	78	フラストレーション (欲求不満)	17	128	シェイピング	14
29	行動療法	24	79	ホメオスタシス	17	129	バウム・テスト (樹木画テスト)	14
30	投影法	24	80	学習障害	17	130	リビドー	14
31	ゲシュタルト心理学	23	81	気質	17	131	レスポネント条件づけ	14
32	ミネソタ多面人格目録 (MMPI)	23	82	記録	17	132	機能的磁気共鳴画像 (fMRI)	14
33	感覚記憶	23	83	錯視	17	133	視床下部	14
34	記憶	23	84	初頭効果	17	134	自己	14
35	社会的学習 (理論)	23	85	知能	17	135	自己開示	14
36	特性論	23	86	認知療法	17	136	自由連想法	14
37	防衛機制	23	87	発達段階	17	137	社会心理学	14
38	無意識	23	88	保持	17	138	従属変数	14
39	類型論	23	89	忘却	17	139	条件反射	14
40	US (無条件刺激)	22	90	UR (無条件反応)	16	140	信頼性	14
41	試行錯誤 (学習)	22	91	ヒューリスティックス	16	141	神経症	14
42	手続き記憶	22	92	プライミング (効果)	16	142	想起	14
43	認知的不協和 (理論)	22	93	外発的動機 (づけ)	16	143	中枢神経系	14
44	インプリンティング (刷り込み)	21	94	感情	16	144	注意欠陥多動性障害 (ADHD)	14
45	人格 (パーソナリティ) 障害	21	95	具体的操作期	16	145	貯蔵	14
46	仮現運動	21	96	効果の法則	16	146	独立変数	14
47	学習	21	97	作業検査法	16	147	認知地図	14
48	観察学習	21	98	情動	16	148	発達課題	14
49	強化	21	99	心理療法	16	149	弁別闘	14
50	消去	21	100	精神分析学	16	150	誘導運動	14

表 2-2：頻度順索引項目一覧

ID	項目	回数	ID	項目	回数	ID	項目	回数
151	来談者 (クライアント)	14	201	潜在記憶	12	251	無意味綴り	11
152	アスペルガー症候群	13	202	前意識	12	252	問題解決	11
153	アルゴリズム	13	203	注意	12	253	ウェクスラー式幼児用知能検査 (WPPSI)	10
154	ウェーバーの法則	13	204	田中・ビネー式知能検査	12	254	エディプス・コンプレックス	10
155	シエマ	13	205	脳波	12	255	ニューロン	10
156	シナプス	13	206	不安障害	12	256	プレグナンツの法則	10
157	パニック障害	13	207	分化	12	257	ボトムアップ処理	10
158	バランス理論	13	208	傍観者効果	12	258	モーズレイ性格検査 (MPI)	10
159	印象形成	13	209	明順応	12	259	運動残効	10
160	奥行き知覚	13	210	アイデンティティ拡散	11	260	家族療法	10
161	感覚運動期	13	211	ウェクスラー式成人用知能検査 (WAIS)	11	261	快樂原則	10
162	観察法	13	212	カクテル・パーティー現象 (効果)	11	262	気分障害	10
163	恐怖症	13	213	フェヒナーの法則	11	263	急性ストレス障害 (ASD)	10
164	形式的操作期	13	214	ラポール	11	264	近接性	10
165	交感神経系	13	215	リーダーシップ	11	265	系統的脱感作 (法)	10
166	査定 (アセスメント)	13	216	暗順応	11	266	経験説	10
167	再認	13	217	維持リハーサル	11	267	参与観察 (法)	10
168	自己中心性	13	218	運動視差	11	268	思考	10
169	自動運動	13	219	援助行動	11	269	視覚	10
170	条件反応	13	220	海馬	11	270	視床	10
171	心身症	13	221	外向性	11	271	自我同一性地位 (アイデンティティ・ステイタス)	10
172	神経伝達物質	13	222	間脳	11	272	自己呈示	10
173	精緻化リハーサル	13	223	共感的理解	11	273	社会的抑制	10
174	前頭葉	13	224	顕在記憶	11	274	集団規範	10
175	展望的記憶	13	225	後頭葉	11	275	心の理論	10
176	道具的条件づけ	13	226	恒常性	11	276	新行動主義	10
177	発達	13	227	構成主義	11	277	人間性心理学	10
178	忘却曲線	13	228	自己実現	11	278	図	10
179	抑圧	13	229	自伝的記憶	11	279	成熟	10
180	喃語	13	230	自律神経系	11	280	相関 (関係)	10
181	QOL (生活の質)	12	231	社会的手抜き	11	281	代理強化	10
182	ウェクスラー式知能検査	12	232	収束的思考	11	282	適刺激	10
183	ストレンジ・シチュエーション (法)	12	233	条件づけ	11	283	内言	10
184	ソーシャル・サポート	12	234	精神物理学	11	284	発達心理学	10
185	ソーシャル・スキル・トレーニング (SST)	12	235	摂食障害	11	285	不登校	10
186	チャンク	12	236	側頭葉	11	286	副交感神経系	10
187	因子分析	12	237	大脳皮質	11	287	網膜	10
188	拡散的思考	12	238	大脳辺縁系	11	288	流動性知能	10
189	帰納的推論 (推理)	12	239	達成動機	11	289	臨床心理士	10
190	強化スケジュール	12	240	知覚の恒常性	11	290	類似性	10
191	強化子	12	241	地	11	291	扁桃体	10
192	結晶性知能	12	242	適応	11	292	躁うつ病	10
193	刺激閾	12	243	頭頂葉	11	293	4枚カード問題	9
194	自閉症	12	244	動機	11	294	PET	9
195	実験法	12	245	内向性	11	295	$\gamma$ -アミノ酪酸 (GABA)	9
196	小脳	12	246	認知	11	296	ウェクスラー式児童用知能検査 (WISC)	9
197	心理検査	12	247	認知症	11	297	エンカウンター・グループ	9
198	新近効果	12	248	表象	11	298	スキナー箱	9
199	精神年齢	12	249	弁別	11	299	トップ・ダウン処理	9
200	青年期	12	250	弁別刺激	11	300	バイオフィードバック (法)	9

表 2-3：頻度順索引項目一覧

ID	項目	回数	ID	項目	回数	ID	項目	回数
301	ヒステリー	9	351	言語性IQ (VIQ)	8	401	エゴグラム	7
302	ビネー式知能検査	9	352	広汎性発達障害	8	402	カウンセラー	7
303	フラストレーション-攻撃仮説	9	353	高機能自閉症	8	403	カタルシス	7
304	フラッシュバルブ記憶	9	354	視空間スケッチパッド	8	404	ゲシュタルトの法則	7
305	プログラム学習	9	355	事例研究 (法)	8	405	ごっこ遊び	7
306	ルビンの盃	9	356	自己効力感	8	406	コンサルテーション	7
307	干渉説	9	357	実験的観察法	8	407	スティーブンスの法則	7
308	幾何学的錯視	9	358	社会的アイデンティティ	8	408	セマンティック・ディファレンシャル法 (SD法)	7
309	強迫性障害	9	359	受容	8	409	セロトニン	7
310	元型	9	360	集団凝集性	8	410	ドメスティック・バイオレンス	7
311	構成概念	9	361	集中学習	8	411	トラウマ (心的外傷)	7
312	思春期	9	362	初語	8	412	ノルアドレナリン	7
313	視覚的断崖	9	363	心理アセスメント (査定)	8	413	フット・イン・ザ・ドア・テクニック	7
314	自発的回復	9	364	身体的魅力	8	414	メタ認知	7
315	社会的参照	9	365	推論	8	415	遺伝子	7
316	社会的動機 (づけ)	9	366	性役割	8	416	運動学習	7
317	集団	9	367	正の強化	8	417	運動野	7
318	順応	9	368	正の強化子	8	418	外言	7
319	錐体	9	369	生得説	8	419	外的帰属	7
320	脊髄	9	370	精神医学	8	420	確証バイアス	7
321	大きさの恒常性	9	371	精神分析療法	8	421	干渉	7
322	調整 (法)	9	372	精緻化	8	422	感覚器官	7
323	転移	9	373	選択的注意	8	423	環境	7
324	脳梁	9	374	体制化	8	424	帰無仮説	7
325	汎適応症候群	9	375	対象の永続性	8	425	気分	7
326	分散学習	9	376	丁度可知差異 (jnd)	8	426	記述統計	7
327	末梢神経系	9	377	動因低減説	8	427	近接の要因	7
328	桿体	9	378	内観	8	428	群化	7
329	アニミズム	8	379	内観法	8	429	健康心理学	7
330	インフォームド・コンセント	8	380	発達障害	8	430	原始反射	7
331	ウェルニッケ野	8	381	標準偏差	8	431	言語	7
332	スクール・カウンセラー	8	382	敏感期	8	432	言語性検査	7
333	スクリプト	8	383	負の強化	8	433	個人心理学	7
334	テスト・バッテリー	8	384	服従	8	434	口唇期	7
335	トークン・エコノミー (法)	8	385	分散分析	8	435	合理化	7
336	ブローカ野	8	386	分析心理学	8	436	根源特性	7
337	ミュラー・リヤー錯視	8	387	偏見	8	437	刺激般化	7
338	ライフ・イベント	8	388	偏差知能指数	8	438	自己評価	7
339	ライフ・サイクル	8	389	保存	8	439	自然観察法	7
340	暗黙のパーソナリティ観	8	390	報酬	8	440	実験心理学	7
341	演繹的推理 (推論)	8	391	目撃証言	8	441	社会化	7
342	横断的研究 (方法)	8	392	有能感 (コンピテンス)	8	442	社会的交換理論	7
343	音韻ループ	8	393	遊戯療法	8	443	社会的認知	7
344	概念	8	394	輻輳	8	444	社会的微笑	7
345	活動電位	8	395	3つ山課題	7	445	樹状突起	7
346	機能主義	8	396	3原色説	7	446	縦断的研究 (法)	7
347	境界性人格障害	8	397	ICD-10	7	447	象徴機能	7
348	橋	8	398	PM理論	7	448	森田療法	7
349	系列位置効果	8	399	TOT現象	7	449	神経細胞	7
350	検査法	8	400	アフォーダンス	7	450	親和動機	7

表 2-4：頻度順索引項目一覧

ID	項目	回数	ID	項目	回数	ID	項目	回数
451	進化論	7	501	WISC-Ⅲ	6	551	攻撃行動	6
452	人工知能	7	502	アナロジー	6	552	構え	6
453	生涯発達	7	503	アレキシシミア	6	553	作用心理学	6
454	生理的欲求	7	504	アンダー・マイニング効果	6	554	刺激項	6
455	精神遅滞	7	505	オペラント行動	6	555	死の本能（タナトス）	6
456	精緻化見込みモデル	7	506	きめの勾配	6	556	視覚野	6
457	説得	7	507	ギャング・エイジ	6	557	事象関連電位	6
458	説得的コミュニケーション	7	508	コミュニケーション	6	558	自己意識	6
459	絶対闘	7	509	ジェンダー	6	559	自己一致	6
460	潜在学習	7	510	ストループ効果	6	560	自尊感情	6
461	潜伏期	7	511	ストレス・マネジメント	6	561	自尊心	6
462	選択的セロトニン再取り込み阻害薬（SSRI）	7	512	デブリーフィング	6	562	軸索	6
463	創造性	7	513	ドア・イン・ザ・フェイス・テクニック	6	563	社会的スキル	6
464	双生児研究	7	514	ドーパミン	6	564	社会的比較	6
465	相補性	7	515	ノンレム睡眠	6	565	集合的無意識	6
466	多義図形	7	516	パターン認識	6	566	順向干渉	6
467	対比	7	517	ファイ現象	6	567	初期経験	6
468	態度変容	7	518	フィードバック	6	568	昇華	6
469	退行	7	519	フォーカシング	6	569	剰余変数	6
470	大脳基底核	7	520	プレマックの原理	6	570	心理的離乳	6
471	調査法	7	521	プロトタイプ	6	571	心理物理学	6
472	動作性IQ	7	522	モーガンの公準	6	572	世界保健機関（WHO）	6
473	内的帰属	7	523	ヤーキーズ・ドットソンの法則	6	573	性格検査	6
474	発達検査	7	524	レム睡眠	6	574	性器期	6
475	反動形成	7	525	ロミオとジュリエット効果	6	575	正の罰	6
476	般化勾配	7	526	愛着行動	6	576	生涯発達心理学	6
477	比較行動学	7	527	遺伝	6	577	生活年齢	6
478	比較心理学	7	528	一貫性	6	578	生理心理学	6
479	非言語的コミュニケーション	7	529	運動知覚	6	579	生理的早産	6
480	非構造化面接	7	530	延髄	6	580	精神物理学の測定法	6
481	非指示的カウンセリング	7	531	解離性障害	6	581	精神分析理論	6
482	標準化	7	532	概念形成	6	582	接近-回避コンフリクト	6
483	表情	7	533	学習理論	6	583	全般性不安障害	6
484	負の罰	7	534	感覚野	6	584	創造的思考	6
485	分裂気質	7	535	基準関連妥当性	6	585	双生児法	6
486	文化心理学	7	536	記憶痕跡	6	586	相関係数	6
487	返報性	7	537	逆向干渉	6	587	相互作用説	6
488	本能行動	7	538	共同注意	6	588	多変量解析	6
489	味覚嫌悪条件づけ	7	539	教育心理学	6	589	対人関係	6
490	妄想	7	540	形式的操作	6	590	代表性ヒューリスティック	6
491	欲求不満耐性	7	541	系列位置曲線	6	591	第二次性徴	6
492	利用可能性ヒューリスティック	7	542	経験主義	6	592	第二反抗期	6
493	類推	7	543	芸術療法	6	593	男根期	6
494	肛門期	7	544	顕在性不安検査（MAS）	6	594	中央実行系	6
495	DSM-Ⅳ	6	545	幻覚	6	595	中性刺激	6
496	DSM-Ⅳ-TR	6	546	現実原則	6	596	中脳	6
497	EQ	6	547	交流分析	6	597	聴覚	6
498	HTPテスト	6	548	向社会的行動	6	598	調査的面接	6
499	K-ABC	6	549	好意	6	599	適性処遇交互作用（ATI）	6
500	NIRS	6	550	好意の返報性	6	600	道徳性	6

表 2-5：頻度順索引項目一覧

ID	項目	回数	ID	項目	回数	ID	項目	回数
601	内観療法	6	651	パターン認知	5	701	刺激	5
602	内容的妥当性	6	652	パンデモニウム・モデル	5	702	児童期	5
603	二因子説	6	653	ピグマリオン効果	5	703	児童相談所	5
604	認知の歪み	6	654	ヒューマン・エラー	5	704	自己強化	5
605	認知的評価	6	655	ブレーン・ストーミング	5	705	自己知覚理論	5
606	粘着気質	6	656	ポジティブ心理学	5	706	自殺	5
607	箱庭療法	6	657	ホスピタリズム	5	707	自律訓練法	5
608	反対色説	6	658	ホルモン	5	708	社会的ジレンマ	5
609	非行	6	659	マインド・コントロール	5	709	社会的望ましさ	5
610	表面特性	6	660	メタ記憶	5	710	囚人のジレンマ	5
611	不安	6	661	レジリエンス	5	711	処理水準	5
612	符号化特定性原理	6	662	安定型	5	712	象徴遊び	5
613	分離不安	6	663	意思決定	5	713	情報的影響	5
614	文化	6	664	意味プライミング	5	714	心気症	5
615	味覚	6	665	引きこもり	5	715	心的回転	5
616	命題	6	666	応用心理学	5	716	神経心理学	5
617	盲点	6	667	回想的記憶	5	717	進化心理学	5
618	要素主義	6	668	回避-回避コンフリクト	5	718	人見知り	5
619	鈴木・ピネー式知能検査	6	669	外向型	5	719	図地反転図形	5
620	劣等感	6	670	外集団	5	720	推理	5
621	連合野	6	671	学習心理学	5	721	随伴性	5
622	老年期	6	672	感情表出	5	722	成人期	5
623	2 語文	5	673	観察	5	723	生態学的妥当性	5
624	DNA (デオキシリボ核酸)	5	674	眼球運動	5	724	生得的行動	5
625	DSM	5	675	基本的欲求	5	725	生理的動機	5
626	MEG	5	676	機能的固着	5	726	精神療法	5
627	アイコニック・メモリ	5	677	規範的影響	5	727	誠実性	5
628	アドレナリン	5	678	虐待	5	728	責任の分散	5
629	いじめ	5	679	逆向性健忘	5	729	接近-接近コンフリクト	5
630	イメージ	5	680	共感覚	5	730	折半法	5
631	うそ発見器	5	681	強迫観念	5	731	節約率	5
632	エコイック・メモリ	5	682	極限法	5	732	選好注視法	5
633	カイニ乗検定	5	683	均衡化	5	733	前向き健忘	5
634	カテゴリー化	5	684	傾聴	5	734	全体報告法	5
635	ガルシア効果	5	685	形の恒常性	5	735	多因子説	5
636	キャリア発達	5	686	健忘症	5	736	体性神経系	5
637	グリア細胞	5	687	検索失敗	5	737	対応バイアス	5
638	ゲシュタルト	5	688	言語野	5	738	対象関係論	5
639	ゲシュタルト療法	5	689	個人的無意識	5	739	大脳	5
640	コーチング	5	690	固着	5	740	大脳半球	5
641	コホート	5	691	構造化面接	5	741	第一印象	5
642	コルサコフ症候群	5	692	行為者-観察者バイアス	5	742	短期貯蔵庫	5
643	コンプレックス	5	693	行為障害	5	743	知覚的防衛	5
644	サブリミナル効果	5	694	行動	5	744	知識	5
645	セルフ・ハンディキャッピング	5	695	行動遺伝学	5	745	知的障害	5
646	タイプA	5	696	高次条件づけ	5	746	置き換え	5
647	ダウン症	5	697	国際疾病分類 (ICD)	5	747	中心特性	5
648	ニューロチック心理学	5	698	骨相学	5	748	注意資源	5
649	ノード	5	699	錯覚	5	749	長期貯蔵庫	5
650	パーソナル・スペース	5	700	産業カウンセラー	5	750	適性検査	5

表 2-6：頻度順索引項目一覧

ID	項目	回数	ID	項目	回数	ID	項目	回数
751	投射	5	801	アルファ波	4	851	奥行き手がかり	4
752	動作性検査	5	802	インテーク面接	4	852	仮面うつ病	4
753	動物心理学	5	803	エイジング	4	853	可聴範囲	4
754	同一視	5	804	エロス	4	854	可能自己	4
755	同時条件づけ	5	805	エントレインメント	4	855	家系研究	4
756	特殊神経エネルギー説	5	806	エンパワーメント	4	856	回避型	4
757	特性	5	807	オペレータ	4	857	外側膝状体	4
758	内集団	5	808	ギルフォードの知能構造モデル	4	858	覚醒	4
759	内分泌系	5	809	ゲシュタルト質	4	859	活性化拡散モデル	4
760	馴化	5	810	コミュニティ心理学	4	860	寛大効果	4
761	乳児期	5	811	サイバネティックス	4	861	感覚遮断	4
762	認知科学	5	812	サッカー	4	862	環境心理学	4
763	認知理論	5	813	ジェンダー・アイデンティティ	4	863	危機	4
764	脳	5	814	セルフ・サービング・バイアス	4	864	危急反応	4
765	媒介変数	5	815	セルフ・モニタリング	4	865	基本感情	4
766	発生的認識論	5	816	タイプA行動パターン	4	866	期待	4
767	発達最近接領域	5	817	タブラ・ラサ	4	867	気分一致効果	4
768	発達加速現象	5	818	テストステロン	4	868	記憶術	4
769	反応時間	5	819	ニート (NEET)	4	869	記憶範囲	4
770	反転図形	5	820	パーソン・センタード・アプローチ	4	870	記号	4
771	反復プライミング	5	821	バイアス	4	871	逆制止	4
772	犯罪心理学	5	822	パペットの情動回路	4	872	逆転移	4
773	非宣言的記憶	5	823	ピア・カウンセリング	4	873	拒食症	4
774	標本	5	824	ブーメラン効果	4	874	共通運命の要因	4
775	不適応	5	825	ブルキン工現象	4	875	共分散構造分析	4
776	負の強化子	5	826	ブロードマンの脳地図	4	876	恐怖条件づけ	4
777	部分強化	5	827	プロダクション・システム	4	877	空の巣症候群	4
778	部分報告法	5	828	ブロッキング	4	878	結果の知識	4
779	分散	5	829	プロファイリング	4	879	月の錯視	4
780	文脈効果	5	830	ベルソナ	4	880	検定力	4
781	閉合の要因	5	831	バンダー・ゲシュタルト・テスト	4	881	見当識障害	4
782	保存の概念	5	832	ポリグラフ	4	882	減衰説	4
783	民族心理学	5	833	マグニチュード推定法	4	883	現象学	4
784	夢	5	834	メタファー	4	884	言語的コミュニケーション	4
785	無条件の肯定的配慮	5	835	メランコリー親和型性格	4	885	個人差	4
786	明るさの恒常性	5	836	モダリティ	4	886	五感	4
787	欲求階層説	5	837	モラル	4	887	向精神薬	4
788	流言	5	838	ランダム・ドット・ステレオグラム	4	888	広場恐怖	4
789	連合	5	839	リアクタンス	4	889	恒常法	4
790	連合主義	5	840	リラクセーション	4	890	構成概念妥当性	4
791	論理療法	5	841	レスポナント行動	4	891	混色	4
792	輻輳説	5	842	意識心理学	4	892	痕跡条件づけ	4
793	1 語文	4	843	意味ネットワーク	4	893	催眠	4
794	t検定	4	844	異常心理学	4	894	錯誤帰属	4
795	アイヒマン実験	4	845	移調	4	895	三項随伴性	4
796	アクション・スリップ	4	846	一般因子	4	896	三段論法	4
797	アセチルコリン	4	847	一卵性双生児	4	897	散布度	4
798	アニマ	4	848	因果関係	4	898	志向性	4
799	アニムス	4	849	栄光浴	4	899	視細胞	4
800	アメリカ心理学会	4	850	延滞条件づけ	4	900	視力	4

表 2-7：頻度順索引項目一覧

ID	項目	回数	ID	項目	回数	ID	項目	回数
901	児童虐待	4	951	相貌失認	4	1001	母集団	4
902	児童心理学	4	952	相貌的知覚	4	1002	夢分析	4
903	磁気共鳴イメージング (MRI)	4	953	多重知能理論	4	1003	名義尺度	4
904	自己スキーマ	4	954	体性感覚野	4	1004	明度	4
905	自己効力	4	955	胎児期	4	1005	模倣	4
906	自己理論	4	956	大脳新皮質	4	1006	模倣学習	4
907	自動思考	4	957	滝の錯視	4	1007	問題焦点型コーピング	4
908	失語症	4	958	脱制止	4	1008	問題箱	4
909	実験群	4	959	脱中心化	4	1009	薬物療法	4
910	社会恐怖	4	960	単語完成課題	4	1010	有意水準	4
911	社会性	4	961	段階的要請法	4	1011	抑うつ	4
912	社会的インパクト理論	4	962	知覚心理学	4	1012	両眼立体視	4
913	社会的影響	4	963	知的好奇心	4	1013	倫理	4
914	社会的規範	4	964	知能偏差値	4	1014	類同の要因	4
915	社会的勢力	4	965	中央値	4	1015	連合遊び	4
916	社会的欲求	4	966	中心溝	4	1016	連続強化	4
917	集団圧力	4	967	中心窩	4	1017	嗅覚	4
918	集団主義	4	968	鋳型照合モデル	4	1018	肛門性格	4
919	循環気質	4	969	聴覚野	4	1019	躁うつ気質	4
920	準実験	4	970	直接プライミング	4	1020	閾値	4
921	順向抑制	4	971	抵抗	4			
922	順序尺度	4	972	適応機制	4			
923	初期学習	4	973	適応障害	4			
924	場面見本法	4	974	徹底的行動主義	4			
925	情動焦点型コーピング	4	975	転換性障害	4			
926	条件性強化子	4	976	東大式エゴグラム (TEG)	4			
927	条件即応モデル	4	977	闘士型	4			
928	状態-特性不安検査 (STAI)	4	978	同一性	4			
929	色の恒常性	4	979	道徳性の発達	4			
930	信号検出理論	4	980	特別支援教育	4			
931	心身二元論	4	981	内向型	4			
932	心理進化説	4	982	内集団びいき	4			
933	新皮質	4	983	内的作業モデル	4			
934	神経症的傾向	4	984	二次条件づけ	4			
935	親密性	4	985	二次的動機	4			
936	身体表現性障害	4	986	認知的バランス理論	4			
937	図と地	4	987	認知発達理論	4			
938	図と地の分化	4	988	認定心理士	4			
939	推測統計	4	989	脳科学	4			
940	髄鞘	4	990	半構造化面接	4			
941	正統的周辺参加	4	991	半側空間無視	4			
942	精神障害	4	992	汎化	4			
943	精神病	4	993	否認	4			
944	青年心理学	4	994	皮膚感覚	4			
945	宣言的知識	4	995	評定尺度法	4			
946	線遠近法	4	996	不適刺激	4			
947	前頭前野	4	997	偏差値	4			
948	前頭連合野	4	998	弁別学習	4			
949	操作	4	999	弁別性	4			
950	操作主義	4	1000	補償	4			

# **Research on Index of Psychology Textbook (1)**

Faculty of Psychology, Department of Psychology  
Masahiro KAWAKAMI

## Abstract

Psychology has a wide domain to learn. And each domain is rather subdivided within psychology, so it can be said that it is very hard to determine the basic knowledge of “psychology” for fresh learners.

It is required to clarify the “essence” of the psychology education as in a terminological form especially for psychology beginners.

In this study, referring to 35 psychology textbooks published from 2006 in 2010 as a pilot study, the index of textbooks of psychology is treated as text data, and the database of index terms were reported.

Keywords: psychology education, technical term, index, database